

産業建設常任委員会 1月22日 現地調査

橋口正人

場所 東市来漁協

日置市農林漁業新規就業支援事業認定者

佐々 祐一氏 44歳 FRP 漁船 十起丸 4.9トン

末山 龍三氏 34歳 FRP 漁船 姫来丸 4.9トン

両氏はごち網漁、刺し網漁などをして主に真鯛、バシヨウカジキ、月日貝などを取って生計を立てている。

委員の質疑

問 船をリースで組んだといったが金額はどれぐらいかかったのか。

答 1000万円ちょっとかかった。毎年負担額は変わるが以前は国(水産庁)が5割を見てくれたが今は3割を見てくれている。

問 どれぐらいを平均すると毎月必要とするのか。

答 まだ、独立してはいないが生活できる範囲でよいと思っている  
50~60万売り上げたらいいと思っている。

問 いつ頃が一番取れる時期か。

答 これから春になるころが一番、魚が取れる。

問 3年間市の助成を受けて取り組んできたわけですが、制度についてどんな感想を持っているのか。

答 家庭をもっているなので、制度を使いながら子供を養い家庭を守り漁業に取り組み、学びができたと思っている。

指導者に国からのお礼が出ているので、その一部をもらっている。それがないと厳しい状況です。

問 漁業に携わりたい若い方がいるのか。

答 40歳前ぐらいの方でしたいと思っている人はいるが、ただ責任を伴う物ですから簡単に進める事は難しい。

問 グループ、漁業と一緒にインターネットでの販売はしないのか。

答 宝来館ではやっています。

デジタルネイブル世代と言われているがスキルミックスができる人がいたらできるのかなーと思います、月日貝に例えたら砂を噛んでいた時にクレーム対応がすぐできる人がいたら、いいのかなー。昨年、私は一人でやってきたのでそう思います。

(月日貝は日置市の宝・ホタテより美味しい・刺し身が美味しい)

問 GPS とか魚群探知機の購入は。

答 上の人から取っていく

“まとめ”

GPS や魚群探知機などレーダーを備えていかないと事故が起こってからは遅く、早めの対応も必要である。

レーダーは 2 つ大事な役割がある、夜間の走る時の安全確保・すでに人がやっている V が何処にあるのか確認等ができる事。

また、レーダー等の優先順位を若手にも与えるよう執行部から漁協に進言し子育て世代の若者の育成に努めて頂きたい。

委員から農業は田を耕しいい土を作っていくのに漁業者は漁礁を作っていないようである、昔は漁師が自分たちで漁礁を作っていた時があり、イカが漁礁に群がり沢山取れたときがあったなど、これからの漁師のやり方をインターネットなど活用し魚の住か漁礁を増やし頑張っていたきたい。